

Coelogyne cristata

セロジネ・クリスタータ

& インド・シッキム州の蘭



セロジネ・クリスタータ



道路脇の壁面から垂れ下がるようにして開花するクリスタータ

インド・シッキム州は1970年代まで独立した王国だったところで、ブータンとネパールに挟まれ北はチベットに接する小さな地域です。ヒマラヤ系山脈の麓にあたるため起伏が激しく狭い地域に様々な気候帯が存在するため、蘭を観察に出かけると様々な種類を見ることが出来ます。

緯度的には熱帯圏にあたる位置にある小国ですが標高の高いところに行けば夏でも雪が残るようなところもあります。この地域で多く見られる洋らんにはデンドロビウム、シンビジウム、セロジネなどがあり、いまだに残る自然林へ行くと多く着生している姿があります。

デンドロやセロジネの開花は3月下旬から4月にかけてが最盛期となります。それぞれの蘭の自生する標高によっても開花する時期がずれていきますから、咲いている花を追い求めてアップダウンを繰り返すと一度にいろいろな種類の花に出会えます。

今回の目的はセロジネ・クリスタータの満開の写真を撮ることでした。13年ほど前に訪れたときは残念ながら極僅かの花しか見ることが出来なかったのといつかまたと思い再訪しました。

セロジネ・クリスタータは標高1500m～2000mあたりに多く着生する蘭です。樹木に着生するものもありますが、その多くは直接岩の上や岩の上に茂った草むらの中で見付けられます。必ず良く日光の当たる斜面で一番後ろのバルブ付近から伸ばす根をしっかりと岩に張り付け、株は前のめりに垂れ下がるようにして着生します。多くの株を見ると株の前半分にはほとんど根がない状態であることが見受けられます。株の様子は国内で販売されている鉢植えとはまったく異なり、バルブはやせ細り中にはぺちゃんこになっている

ような株も見られます。それでも中には1花径に7輪もの大きな花を咲かせている個体も見付けました。私たちが日本でがんばって栽培しても7輪はなかなか付かない輪数です。自然の株を目の前にして、このようにやせ細った株のどこにそんな力があるのか、とても考えさせられる光景でした。

セロジネ・クリスタータより先や標高を下げドライブすると今度はデンドロビウム・ノビル(ビエラルディー)の満開に出会えました。このデンドロは日本で人気の高いノビル系交配種の一番重要な親になった原種です。ノビルは標高800～1000mあたりで多く見られるようです。さらに下って行くと標高350mほどにある中規模の町の真ん中でデンドロビウム・アフィルム(ビエラルディー)が見事な満開状態で咲いていました。しかも数え切れないほどの株が1本の木に着生し、まるで桜が咲いているかのような光景に出会うことが出来ました。驚くことにノビルもアフィルムも高芽がひとつも見当たりません。日本で栽培していると多くの場合は高芽がたくさん出てきて株を台無しにしてしまいます。自然の気候でいきいきと育ちストレスもなく完璧に咲くさまから、蘭たちが「人間なめるなよ」といっているような気分させられた旅でした。



北シッキムへと続く国道・この道沿いにクリスタータが咲く



シッキム南部で開花するデンドロ・ノビル



自然の状態で7輪も開花させる見事な個体



自然の状態で開花するときにはバルブは水分を失いやせ細っている



シッキム南部で満開に咲くデンドロ・アフィルム(ビエラルディー)、高芽が一つもなく見事に咲いている



野生状態で咲くセロジネ・オクラセア周囲は甘い香りで包まれている